

令和6年度 事業報告

1. 総括

一昨年度、昨年度に引き続き、敬川拠点(ショートステイ)の利用率低迷が、法人の運営を危機的状況にしている。敬川拠点は、職員不足解消と、ショートステイの利用率増加を必死に取り組んだものの、利用率は微増に留まっている。高野拠点は特養の待機者ゼロの状況を、ショートステイの空床利用で良くカバーしている。

両施設において、職員不足・物価高騰・需要減少と経営環境は厳しさを増しているが、全職員の精励によりなんとか持ちこたえて運営できている。新型コロナについては、今年度も両施設で発生したが、職員の協力で乗り切ることができた。

2. 組織体制等

【高野】

令和6年度も継続して、「相手を知り生き生き笑顔で助け合える『故郷』に」という理念を施設一体となって共有出来る様、外部講師を入れ取り組んできた。年間の必須研修「虐待防止研修」・「事故防止研修」も含めた研修と、主任・リーダー・個人の面談を行い、人材の育成とアンガーマネジメント・ストレスの解消に努めてきた。今年度、2名の在職者が社会福祉主事任用資格（生活相談員）の資格を取得した。

利用率については、特養は昨年同様空床が3~4部屋、実質待機者が無い状態で利用率は80%台、短期利用率は90%台で、職員が少ない中よく対応してきた。

令和7年1月にコロナ感染症によるクラスターが発生した(利用者26名、職員9名)。

居宅介護支援事業所故郷を休止としていたが、居宅介護支援事業所故郷の更新申請に伴い、令和7年3月31日をもって、有資格者を雇用することが困難と判断、事業所を廃止とした。

職員不足が常態化しているが、多様な時間帯の非常勤職員を雇用することでなんとか対応している。職員の高齢化は否めない現状がある。

【敬川】

令和5年4月より採用した外国人職員4名(1期生)が、令和7年3月末の2年間で全員退職となった。職員不足を解消するべく外国人職員に希望を見だし、日本人職員も含めて積極的に採用してきたが、退職者もそれ以上発生し、職員不足解消には至っていない。そのようななか令和6年8月に外国人職員3名(2期生)を採用し、あきらめずチャレンジを続けている。職員数は一進一退で綱渡り状態だが、職員採用を行っていかねば運営を続けることができない。日本人職員の応募は見込めないなか、令和7年9月にも外国人職員3名(3期生)を採用する予定。

一方、職員数に余裕のあった事務職員(5名)と看護職員(4名)のうち3名が退職し、凶らずも余剰人員の人件費が削減でき、かつ、生産性向上と構造改革につながったことは一筋の光明であった。結果、令和7年1月~3月は、収支トントン・赤字ゼロで運営できている。

今後は介護職員不足を解消し、利用率を上昇させることだけを考えるのではなく、

生産性向上と構造改革、重複作業・無駄な作業の削減により、コスト削減も実施して、持続可能な運営が可能な事業所へと変革していく。

3. 勤務体制（職員の動向）

【高野】

新規採用者：厨房職員(正職)1名、介護補助職員(非常勤)1名

合計 2名

退職者：管理栄養士(正職)1名、介護職員(常勤)1名、介護補助職員(非常勤)1名

合計 3名

3月末現在：介護職員(常勤)13名、(非常勤)7名、介護支援専門員(常勤・兼務)1名、

看護職員(常勤)1名、(非常勤)1名、厨房職員(常勤)3名、(非常勤)2名、

事務職員(常勤)4名

合計 31名

【敬川】

新規採用者：介護職員(常勤)7名

合計 7名

退職者：介護職員(常勤)8名、事務職員(常勤)2名、栄養士(常勤)1名、

看護職員(常勤)1名

合計 12名

3月末現在：介護職員(常勤)23名、看護職員(常勤)3名、機能訓練指導員(常勤)1名、

介護支援専門員(常勤)1名、生活相談員(常勤)1名、

事務職員(常勤)2名、(非常勤)1名

合計 32名(3月末の退職者1名含む)

4. 利用実績・職員研修・年間行事・その他

別紙のとおり

5. 設備、備品等の改廃状況

【高野】

第3期空調設備（共有スペース）の修繕。居室の小型温水器取替え（4台）。

【敬川】

褥瘡予防マット購入、定位水位弁取替、エアコン修理(4回)、特浴ストレッチャー修理、照明設備LED化(補助金使用)、厨房ガスレンジ導入、食洗機修理(3回)、厨房換気口修理、特浴更新(補助金使用)、移乗リフト購入(補助金使用)、パソコン購入、複合機更新。

6. 建物等修理・修繕状況

【高野】 建物修繕はなかった。

【敬川】 建物修繕はなかった。